

「家庭学習と国語力 など」 水島 酔

1、コロナは何を変えたか？

社会全般について

- ・「蒸気機関（産業革命）」で、人間の手仕事が機械によってなされるようになった。
- ・「コンピューター（電子計算機）」で、アルゴリズム（解法）の明確な作業は、コンピューターの仕事となった。
- ・「AI（Artificial Intelligence =人工知能）」（もどき）で、コンピューター自身がアルゴリズム（解法）のあるものについて、それを発見できるようになった。

コロナは、これらの事実を明示し、人間に再認識させたただけ。

東ロボくん／ロボットは東大に入れるかプロジェクト の断念
国語は偏差値50を超えられなかった

機械／コンピューターができないことは何か

- 「意味のあるモノ」「価値のあるモノ」の創造
- 読解

どちらも

アルゴリズム（解法）がない！



アルゴリズムのないものは

コンピューター（AI）には解けない



プロジェクトリーダー
新井紀子の著書

子供の学習環境について

3月～5月の3か月間という、異例の長期に渡る休校措置。

休校の3か月間、小学校はどのような学習面における対応をしましたか？

- 1、課題が与えられた（自分でやっておきなさい）
- 2、リモート学習
- 3、特になし

いずれにせよ、休校の分、授業は遅れている。

その分、夏休み返上で授業をするか？ しない！ できない！！ やりたくない！！
ではどうするか？ 学校側の対策は2つしかない。

①、学習内容を減らす

算数、理科、社会…単元を削除するのは不可能（薄くするのは可能？）

国語…減らすのは可能（だけれど、減らしちゃダメ）

図画・工作、音楽、体育、家庭、道徳、外国語など…減らすのは可能

②、授業のスピードを上げる・抜けた単元を後の学年にまわす…全科目にしわ寄せが来る

①、②いずれにしても、違憲ではないか？（憲法26条）

夏休み、冬休み、春休みを最大限まで減らし、かつ土曜日を可能な限り授業をして、それで足りない分は「しかたがない」も許されるが、最大限の努力をしないで、子供にその負担を押し付けるのは、問題ないか？「緊急事態」という大義名分の下に押し切るか？

↑正論=建前 \ (^o^)/

今後どうなる？

世の中の動きは、非常にキナ臭い。（これ以上は述べません）

コロナの第二波、第三波によって（あるいは別の理由によって）、さらなる休校措置がとられる可能性は大きい。

今回わかったように、学校（政府）は、休校で減った授業時間を取り戻す対策はとらない！

↓

自分で対策をとるしか、方法がない！

でも大丈夫です！ なぜなら、授業が圧縮されても、それを吸収できるだけの理解力を持っていればよいから

コロナ騒動で

吸収できるだけの理解力があるかないかが、明確になるでしょう。

2、国語力は、全ての学力の基礎

国語力は、全ての学習の基礎であり、かなりの要素を占める。

思考は国語（母語）で行われるから → 思考力≒国語力

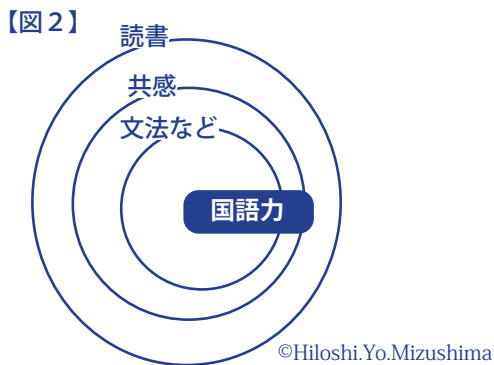
水島の直感：

- ・国語の95%が国語力
- ・社会の80%が国語力
- ・理科の60%が国語力
- ・算数の40%が国語力

だから、国語力を上げることで
各科目のかなりの成績を向上させることができる。

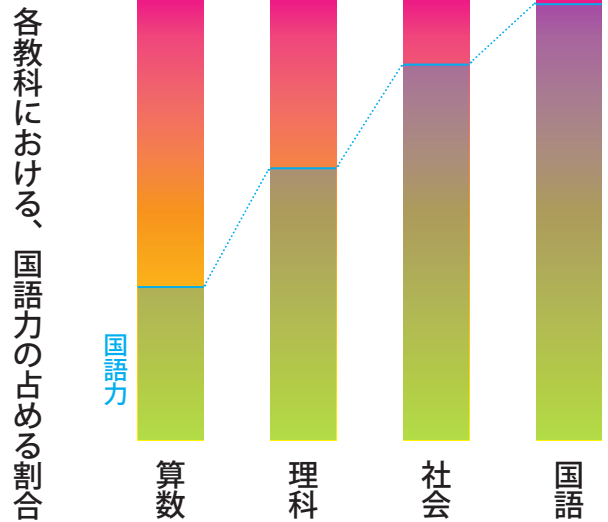
国語力を上げる必要条件

- ①、読書（文字を読むこと）
- ②、共感（他人が何を考えているかわかること）
さまざまな経験
- ③、文法、記述、その他たくさん

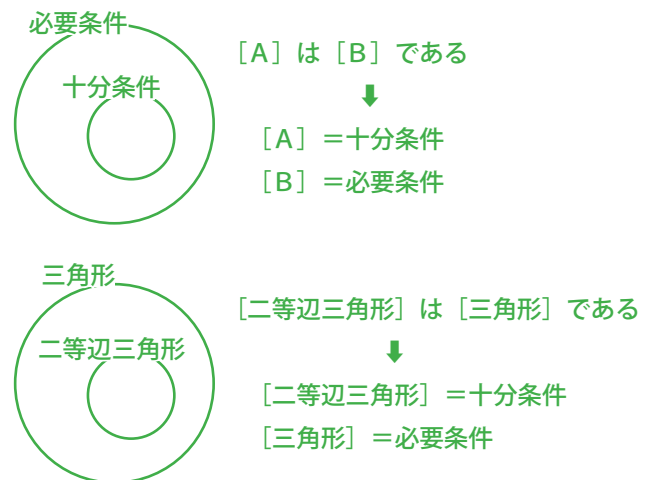


- *上記①に関しては、完全に「必要条件」。
だから、①読書（文字を読む）訓練なしに、国語力の向上はあり得ない。
②、③に関しては、ほぼ必要条件。

【図1】



【図3】

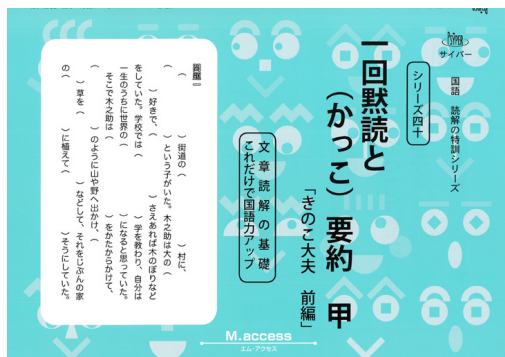


「国語力を上げるためには、どうしても読書が必要！」
と言うと、「読書しても国語力が上がらなかった」という反論が来る。

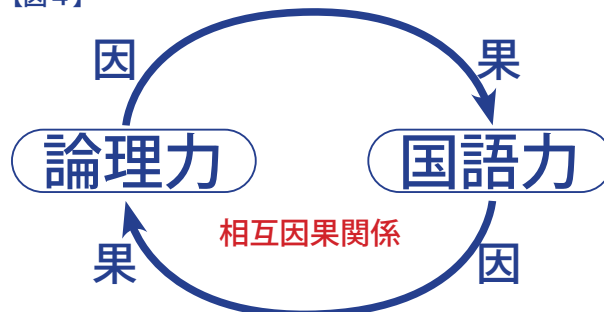
↑「必要条件」と「十分条件」のちがいがわかっていない。

*論理は国語とは、国語力が上がれば論理力が上がり、論理力が上がれば国語力が上がる、という相互因果関係にあるので、論理を鍛えれば国語力が上がる、というようなりニア（直線的）な関係にはない。論理は国語力にとって、必要条件でも十分条件でもない。

また、論理は全ての科目の学習に必要なことであるので、取り立てて国語にだけ「論理」を打ち出すのは、全くの見当違い。国語が論理で伸びるというのは、ただのキャッチコピーに過ぎない。



【図4】



読書力を上げるために

自発的には「読書」 → 夏休みは読書！ 最低**毎日1時間** (cf. 推薦図書 P6-7)

訓練としては「音読」 → お家で「サイパー 十回音読と音読書写」

「精読」 → お家で「サイパー 一回黙読と(かっこ)要約」

「視聴話写」 → 小4・5国語授業でやっています

3、マインドフルネスは、人間力の基礎

本来持っている脳の処理能力を妨げる、必要以上の「生存欲=渴愛（タンハー）」。

生存欲：食欲・睡眠欲・性欲 ← 直接に人間の能力を下げる

怒り（=怒り・悲しみ・焦り・妬み） ← 間接に人間の能力を下げる

DMN ※ の無駄な消費=自動車のアイドリングの空ぶかしのようなもの
ガソリンは無駄！ エンジンにはダメージ！

(※ DMN : Default Mode Network デフォルトモードネットワーク

: 無意識の状態でも活動している脳の基本状態)

*マインドフルネスは、「生存欲=渴愛（タンハー）」を必要最低限まで落とし、
脳の処理能力を向上させる。

*マインドフルネスは、**集中力を上げる**

*マインドフルネスは、**共感力を上げる** → 国語力を上げる → 全ての学力を上げる

マインドフルネスの訓練は、もちろんマインドフルネスの専門家に習うのが良いが、マインドフルネスは釈迦の説いた「初期仏教（原始仏教）≒上座部=テーラワダ」が原点であるので、本当にマインドフルネスの訓練を受けたい人は、「テーラワダ」仏教の修行僧に教わるのが良いでしょう。

(cf. 「ヨーガ・初期仏教からマインドフルネスに至る流れ P8」)

※マインドフルネスを標榜する「カルト」には、十分にご注意ください。

4、計算は、算数（代数）の基礎

計算が速く正確にできることによって

- ・考える時間が増える
- ・説明を聞く時間が増える
- ・心の余裕ができて、自信とやる気につながる

計算力は訓練で伸びます → 計算はクラスで1番、学年で1番を目指す

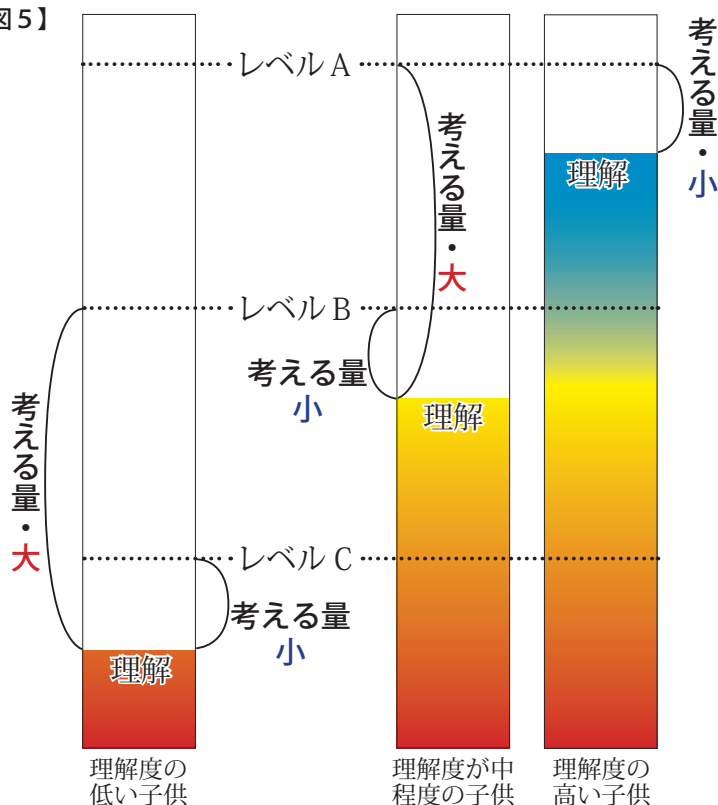
5、遊びは創造力の基礎

休みの期間は、遊びましょう（P2の緑字の部分は、あくまでも「建前」）

遊びは、机上の勉強よりはるかに頭を良くします。

6、基礎力を上げることが全てにつながる

【図5】



推薦図書（学年は目安です）

（名作は、これの何倍もの量があります。名作を見つけるコツは、**長く読み継がれている本**、を探すことです。）

◆小学低学年

「三月ひなのつき」石井桃子
「七つのぼけっと」あまみきこ
「グリとグラ」シリーズ 中川李枝子
「さる・るるる」「みんなうんち」五味太郎
「だるまちゃん」シリーズ 「ははのはなし」加古里子
「モモちゃん」シリーズ 松谷みよ子
「ちびくろさんぼ」バンナーマン
「エルマーのぼうけん」ガネット
「機関車トーマス」シリーズ ウィルバート・オードリー
「ごんぎつね」新美南吉
昔話いろいろ「桃太郎」「浦島太郎」「こぶとりじいさん」
「花さかじいさん」「舌きりすずめ」など

◆小学中学年

「ノンちゃん雲に乗る」石井桃子
「わたしのいもうと」松谷みよ子
「車のいろは空のいろ」あまみきこ
「おじいさんのランプ」新美南吉
「ながいながいペンギンの話」いぬいとみこ
「くまの子ウーフ」神沢利子
「王さま」シリーズ 寺村輝夫
「走れメロス」太宰治
「肥後の石工」「あるハンノキの話」今西祐行
「焼けあとの白鳥」「つりばしわたれ」長崎源之助
「夕鶴」木下順二
「蜘蛛の糸」芥川龍之介
「泣いた赤鬼」「むく鳥のゆめ」浜田広介
「宿題ひきうけ株式会社」古田足日
「ちょうちょむすび」今江祥智
「おばあさんの飛行機」佐藤さとる
「風の又三郎」「セロ弾きのゴーシュ」「注文の多い料理店」宮沢賢治
「川は生きている」富山和子
「窓際のトットちゃん」黒柳徹子
「岳物語」椎名誠
「柿の木のある家」壺井榮
「ペロ出しチョンマ」「モチモチの木」齋藤隆介
「風信器」大石真
「少年動物誌」河合雅雄
「善太三平物語」「魔法」坪田譲治
「銀色ラッコのなみだ」岡野薫子
「イソップ寓話」
「アラビアンナイト」
「スプーンおばさん」シリーズ プリョイセン
「みにくいアヒルの子」アンデルセン
「ヘンゼルとグレーテル」グリム兄弟
「ガリバー旅行記」スウィフト
「ロビンソンクルーソー」ダニエル・デフォー
「宝島」スチーブンスン
「ピノッキオ」コッロディー
「昆虫記」ファープル
「動物記」シートン
「トムソーヤの冒険」「王様とこじき」マーク・トゥエイン
「青い鳥」メーテルリンク
「小公子」「小公女」バーネット

「ハイジ」ヨハンナ・スピリ
「赤毛のアン」モンゴメリ
「イワンのばか」トルストイ
「子鹿物語」ローリングス
「せむしの子馬」エルショーフ
「ドリトル先生」ロフティンゲ
「ニルスの不思議な旅」ラゲールレーフ
「にんじん」ルナール
「みつばちマーヤの冒険」ボンゼルス
「足ながおじさん」ウェブスター
「森は生きている」マルシャーク
「クマのプーさん」ミルン
「長くつ下のピッピ」「名探偵カッレ君」リンドグレーン
「大どろぼうホッツェンプロッツ」プロイスラー
「ドンキホーテ」セルバンテス
「ぼろ男爵の冒険」ビュルガー

◆小学高学年

「しろばんば」井上靖
「ビルマの豎琴」竹山道雄
「伊豆の踊子」「雪国」川端康成
「ぼんぼん」今江祥智
「坊っちゃん」「吾輩は猫である」夏目漱石
「魔術」「杜子春」「トロッコ」芥川龍之介
「赤いろそくと人魚」小川未明
「銀河鉄道の夜」宮沢賢治
「次郎物語」下村湖人
「二十四の瞳」壺井榮
「耳なし芳一」小泉八雲
「山椒大夫」「高瀬舟」森鴎外
「一房の葡萄」有島武郎
「春を告げる鳥」宇野浩二
「清兵衛とひょうたん」志賀直哉
「コタンの口笛」石森延男
「片耳の大鹿」椋鳩十
「あるハンノ木の話」「肥後の石工」今西祐行
「コロボックル」シリーズ 佐藤さとる
「春は馬車に乗って」横光利一
「高安犬」戸川幸夫
「怪人二十面相」江戸川乱歩
「フランダースの犬」ウィーダ
「クオレ〈愛の学校〉」デ・アミーチス
「アンクル・トムの小屋」ストウ夫人
「家なき子」エクトル・マロー
「ふたりのロッチェ」「エミールと探偵たち」「飛ぶ教室」ケストナー
「三銃士」「モンテ・クリスト伯」大仲馬
「ジャン・クリストフ」ロマン・ロラン
「アルセーヌ・ルパン」シリーズ モーリス・ルブラン
「シャーロック・ホームズ」シリーズ コナン・ドイル
「不思議の国のアリス」ルイス・キャロル

◆中学

「たけくらべ」「にごりえ」樋口一葉
「檸檬」梶井基次郎
「吾輩は猫である」夏目漱石
「竹取物語」
「羅生門」「鼻」芥川龍之介
「海と毒薬」遠藤周作

推薦図書（続き）

「路傍の石」「真実一路」山本有三
「黒い雨」「山椒魚」井伏鱒二
「生まれ出づる悩み」有島武郎
「ブランコのむこうで」星新一
「モモ」「はてしない物語」ミヒヤエル・エンデ
「ああ無情 くレ・ミゼラブル」ビクトル・ユゴー
「海底二万哩（マイル）」「十五少年漂流記」ベルヌ
「西遊記」呉承恩
「若草物語」オルコット
「最後の葉」O・ヘンリー
「荒野の呼び声」ジャック・ロンドン
「金閣寺」「潮騒」三島由紀夫
「三四郎」夏目漱石
「裸の王様」開高健
「虚構の家」「落ち葉の声」曾野綾子
「山月記」中島敦
「友情」「愛と死」武者小路実篤
「野菊の墓」伊藤左千夫
「宿題」安岡章太郎
「さぶ」山本周五郎
「風立ちぬ」堀辰雄
「雨月物語」上田秋成
「ドクトルマンボウ」シリーズ 北杜夫
「江分利満氏」シリーズ 山口瞳
「ブンとファン」井上ひさし
「父の詫び状」向田邦子
「三国志」羅漢中
「水滸伝」
「コンティキ号漂流記」ハイエルダール
「ナルニア国ものがたり」C・S・ルイス
「指輪物語」トールキン
「ゲド戦記」ゲウイン
「最後の授業」ドーデ
「ジェーン・エア」「嵐が丘」ブロンテ
「老人と海」ヘミングウェイ
「月と六ペンス」モーム
「阿Q正伝」魯迅
「オリエント急行」アガサ・クリスティー
「Xの悲劇」エラリー・クイーン
「黒猫」エドガー・アラン・ポー
「奇蹟のリンゴ」石川拓治

知っておきたい詩歌（「作品名〈詩集名〉」作者名）

「道程〈道程〉」「あどけない話〈智恵子抄〉」高村光太郎
「雨ニモマケズ」「永訣の朝〈春と修羅 第一集〉」宮沢賢治
「お魚〈童話〉」金子みすゞ
「椰子の実〈落梅集〉」「小諸なる古城のほとり〈落梅集〉」島崎藤村
「荒城の月〈天地有情〉」土井晩翠
「汽車に乗って〈幼年〉」丸山薫
「旅上〈純情小曲集〉」萩原朔太郎
「小景異情 その二〈抒情小曲集〉」室生犀星
「雲〈雲〉」山村暮鳥
「薔薇〈白金之独楽〉」「まちぼうけ〈日本の詩歌 別巻〉」
「からたちの花〈白秋詩集〉」北原白秋
「汚れつちまつた悲しみに……〈山羊の歌〉」中原中也

「ああ大和にしあらしかば〈白羊宮〉」薄田泣菫
「雪〈測量船〉」三好達治
「おれも眠らう〈第百階級〉」草野心平
「二十億光年の孤独〈二十億光年の孤独〉」谷川俊太郎
「虫の夢〈春 少女に〉」大岡信
「表札〈表札など〉」石垣りん
「水ヲ下サイ〈原民喜詩集〉」原民喜
「仮縋帯所にて〈原爆詩集〉」峠三吉
「君死にたまふことなかれ〈与謝野晶子全集9〉」与謝野晶子
「自分の感受性くらい〈自分の感受性くらい〉」茨城のり子
「偶成」朱熹
「春暁」孟浩然
「絶句」杜甫
「桃夭」
「黄鶴楼送孟浩然之広陵」李白
「酔いどれ船」アルチュール・ランボー
「ローレライ」ハインリッヒ・ハイネ
「野ばら」ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ

知っておきたい唱歌

「花」武島羽衣
「みかんの花咲く丘」加藤省吾
「故郷」「日の丸の旗」「紅葉」高野辰之
「赤とんぼ」三木露風
「夏は来ぬ」佐佐木信綱
「赤い靴」「七つの子」「しゃぼん玉」野口雨情
「あめふり」「まちぼうけ」北原白秋
「サっちゃん」阪田寛夫
「ウミ」林柳波
「金糸雀」西條八十
「靴が鳴る」「叱られて」清水かつら
「早春賦」吉丸一昌
「春よ来い」相馬御風
「椰子の実」島崎藤村
「里の秋」斎藤信夫
「ちいさい秋みつけた」サトウハチロー
「月の沙漠」加藤まさを
「浜辺の歌」林古溪
「夕焼小焼」中村雨紅
「旅愁」犬童球溪
「一月一日」千家尊福
「お正月」東くめ
「母さんの歌」窪田聡
「たきび」巽聖歌
「ふじの山」巖谷小波
「かたつむり」「鳩」「人形」「雪」「茶摘」「村祭」「汽車」「村の鍛冶屋」
「冬景色」「仰げば尊し」「海」文部省唱歌

ヨーガ・初期仏教 から マインドフルネス に至る流れ

青は東洋思想
赤は西洋科学

